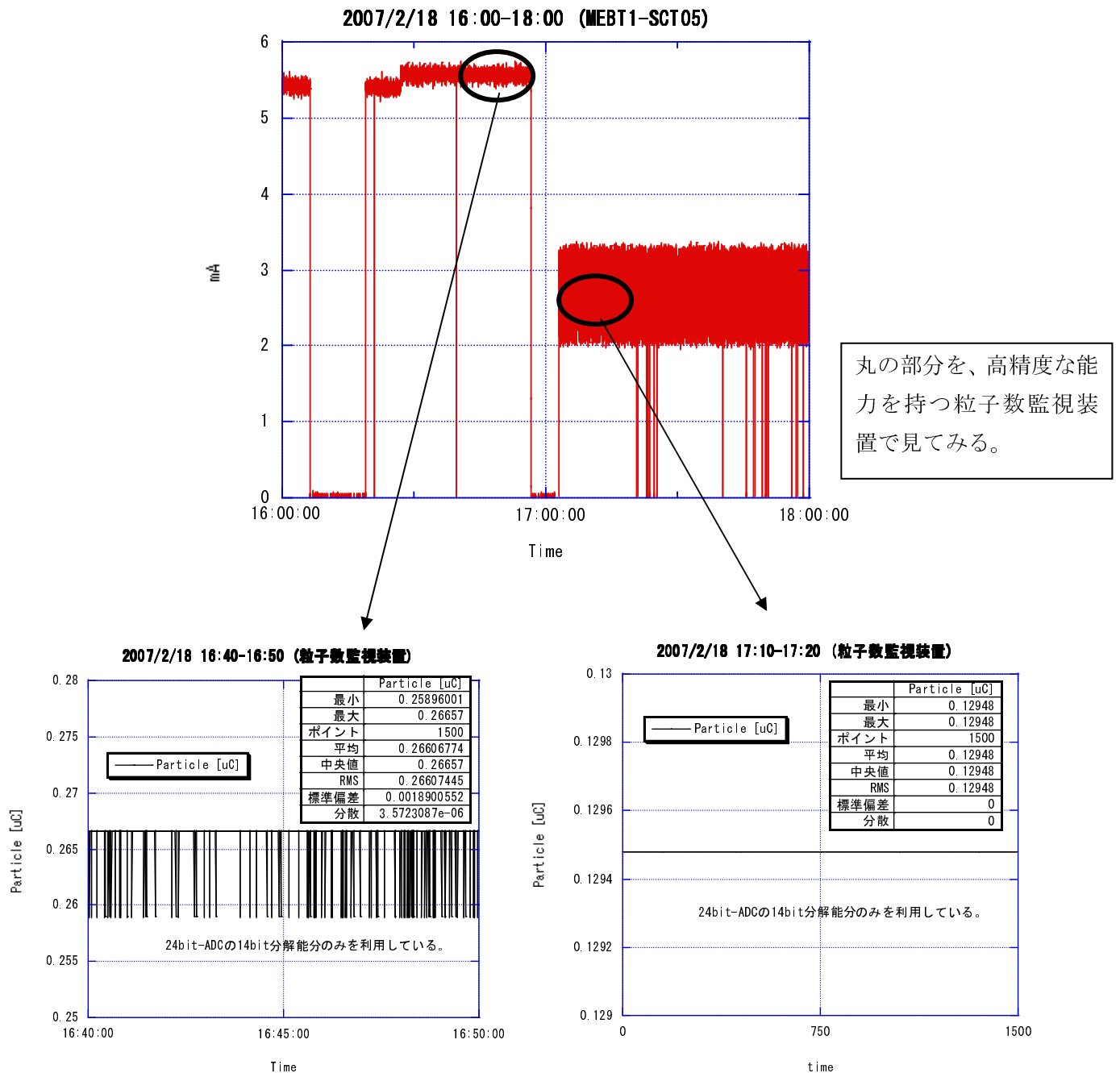


チョッパービームの電流量について

チョッパーが動作した時の、SCT のログ。EPICS のレコードをアーカイブしている。この SCT 値だけでは、揺らぎが大きすぎてチョッパー動作によって電荷量が 50% になったかどうかよくわからない。そこで、高分解能な粒子数監視装置データで確認する。



粒子数監視装置は、24 ビット分解能であるが、上位にはそのうちの 14 ビットだけを転送してくる。14 ビット分解能でも、チョッパーされたビームは揺らぎが検出されていない。かなり安定した状態である。このデータより、チョップ前後で平均電荷量を見ると、チョッピングの効率は 48.5% である。